

## 中核遺跡 <比爪館(1)>

比爪の中心施設「比爪館」は、南日詰の「比爪館跡」とされています。その範囲は東西幅約300m、南北幅約200mで、南側は五郎沼に面し、北・東・西辺は大溝で区画されています。大溝は幅約10m、深さ1～2mの規模であり、幅に比較して浅いもので、防御的な堀というよりも、区画溝と理解すべきものです。大溝で囲まれた区画の内部面積は5万㎡に及ぶ広大なものになります。これまで、32次にわたる発掘調査がおこなわれ、多量のかかわり等の遺物が出土しています。12世紀前半の遺物も少量出土しており、平泉初代の清衡の時代から営まれていると判断できます。大溝の区画からは、塀や区画溝が検出されており、大溝区画内部がさらに区画されていると読みとれます。(次号につづく)

— 岩手県立博物館テーマ展『比爪-もう一つの平泉-』パンフレットより —

## 《《《 2～3月行事予定のお知らせ 》》》

2月18日 (水曜日)	第59回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：高橋敬明 テーマ：「比爪系奥州藤原氏」-県博テーマ展から- 発表者：中野宏 テーマ：「南日詰箱清水五智如来碑」について
3月18日 (水曜日)	第60回月例懇話会	午後7時から午後9時まで 赤石公民館 発表者：田村勝則 テーマ：延喜式内社志賀理和氣神社について

## ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ 新春フォーラムのお知らせ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

紫波町平泉関連史跡連携協議会主催、赤石地区ひづめ館懇話会他4団体共催の第10回フォーラムが次のとおり開催されます。熊谷町長さんの基調講演や、当懇話会の高橋会長他3名のパネルディスカッションがありますので、皆で参加し大いに盛り上げましょう。

平成27年度は、紫波町観光振興計画の最終年度であり、次の基本計画策定の年度でもあります。公民連携の本旨を基に、歴史文化遺産を資源とする紫波町の観光振興について、私達も考えてみる機会にしたいものです。

日時	平成27年2月1日(日) 午後2時～4時		
会場	オガールプラザ内「紫波町情報交流館2階大スタジオ」 JR紫波中央駅前		
参加費	500円		
第I部	基調講演	『紫波町の観光振興について』	
	講師	熊谷泉 紫波町長	
第II部	パネルディスカッション	『歴史・資源を生かす 紫波の新しい観光振興計画』	
	パネラー	深澤剛	紫波町議会産業建設常任委員長
	〃	高橋栄悦	一般社団法人紫波町観光交流協会会長
	〃	高橋敬明	赤石地区ひづめ館懇話会長
	〃	石幡信	紫波町文化財調査委員・しゃべーる会員
	コーディネーター	瀬川勲	紫波町平泉関連史跡連携協議会事務局長

「羽柴直人先生と行くツアー」の紀行文を前号に続き掲載します。

## 比爪館から奥大道の終着点外ヶ浜まで(下)

宇部真澄

一日の強行軍が終わって、温泉泊。夕食時の懇親会では歌あり講談あり、それぞれの出身校の校歌ありと、本当に同級会のような楽しさ。

さて第二日目。まず向かったのは青森市の物産館アスパム。ここへ向かうバスの中で、この日も羽柴先生からこれからの見学地についての丁寧なレクチャーを受ける。個人で車で歩き回っても、こんなにいろいろ詳しくは分からないと思うと、このツアーで勉強出来ることの大きさに感謝、感謝。

おまけにしゃ・べるメンバーで元バスガイド、大平さんのボランティアガイド付き。「八甲田山死の行軍」の話には、概ねは分かっている内容なのに、改めて彼女の名調子で聞くと、また涙なしでは聞けない気持ちになる。

アスパムでは全員最上階の展望台まで上がり、そこから陸奥湾、青森湾を一望。前日の小雨模様が嘘のような晴天に、入場の受付嬢が、岩木山がはっきり見えるようなこんな晴れ方は、年に何日もありません、と歓迎してくれた。

西に岩木山や八甲田連峰を望む。北に快晴の陸奥湾、青森湾を望みながら、ここで「外ヶ浜」という地名の概念について羽柴先生から解説があった。ああ、やっと比爪の地から外ヶ浜まで到着、との感慨に浸る。

奥大道の出発点、白河関から外ヶ浜まで五百余キロメートル、その道筋に清衡が一町ごとに金の阿弥陀仏を描いた笠卒塔婆(道標)を立てた、それは計算すれば約五千本、と、驚きの話も弾んだ。

次は西に向かって浪岡町。だが浪岡城址にはいささか落胆。聞けば人件費の節約とかで管理が行き届いていない様子。昨日の情熱人のいる七戸城とつい較べてしまう。代わりに羽柴先生の解説があった。

碓ヶ関の道の駅で昼食。そして一路秋田県大館を目指す。

大館では市の若い職員が二名、現地で待っていて下さって、叢の中の細い細い道を矢立廃寺跡へ案内して下さいました。現地には説明版が立っているものの、辺りには一面に丈高い雑草が生い茂っており、僅かに地形にその面影を偲んだ。

そこから二人の職員の先導で、バスは大館郷土博物館へ。ここも旧県立高校の校舎を利用して開館した建物ということで、校舎部分のほか、体育館という広い空間は、緩やかな斜面を自然に二階部分まで進めるように工夫されていた。かなり大規模な施設で、やっぱり「羨ましいね」という状況。

次の錦神社は、外見は道路に面した間口の小さいこじんまりしたそれだが、奥行きはけっこうある。折しもこの日はこの地、にえの柵で泰衡が河田次郎に討たれたその命日とて、地元の方々が大勢集まって法要。このあと皆で懇親会、という所に行き合わせ、泰衡の首が届いた陣ヶ岡を擁する紫波町の面々を大歓迎して下さいました。首のない泰衡の身体をねんごろに葬り、以来八百有余年、こうして毎年欠かさず供養して来た土地の人たちの心根には、頭が下がるばかり、胸を一杯にして帰路についた。

今回のこのツアーで、平泉藤原時代にその勢力下だったそれぞれの土地を実際に解説付きで巡り、特にも蝦夷が島を遥かに望む奥大道の終着点、外ヶ浜まで至ったことと、泰衡終焉の地を目の当たりにしたのは、大きな感動と収穫の二日間、と言えたと思う。